

紅色に山粧う 日高村 錦山

日高村 能津地区にある錦山公園。
 一帯は蛇紋岩地帯となっており、約100haに
 わたりドウダンツツジが群生している。
 春には新緑とともに小枝端の梗頂に
 つぼ状の下垂した愛らしい白色の花を開き
 秋には極めて華やかに紅葉し、全山が錦を
 織りなしたように美しく粧うことから錦山の
 由来となっている。



天空の里
大花

大花には土佐の名木古木に
 選ばれているイチヨウ
 イチイダシ、カゴヤの
 大木が根を張っている

春は花の森を抜け
 夏は虫鳴雨の中を
 秋は紅葉の木の道
 冬は凩と冷風が吹かれ
 全山を歩いてみよう。

至仁淀川
 国道194号線

ドウダンツツジ
 まちがいはい

江戸時代からよく知られた庭園樹であったドウダンツツジは
 日本国内での自生が疑問視されていた。
 大正2年夏、本県の植物学者 吉永虎馬氏が錦山で
 ドウダンツツジの自生種を発見。その後、牧野富太郎博士が
 蛇紋岩地帯で産することが錦山で確認され、正式に
 日本固有のドウダンツツジの自生地として証明された。
 現在でも唯一の自生地とされている。



日高村は村のシンボルとして
 木はドウダンツツジ
 花はコスモス
 鳥はシラサギ
 が指定されている

往時(年不明)能津出身の
 大相撲力士がおり、この山に因み「錦山」と
 名乗っていた記録がある。
 また、明治初期には能津
 在村出身の「錦山虎司」と
 いふ力士もいた。

景観美
 丘一帯の霧山茶園
 すばらしい景色が広がる

日本列島に点在する蛇紋岩地帯の中で
 錦山は低地にもかかわらず、夕張や
 早稲山、東赤山などとともに
 特殊な植物を産するとい
 古くから知られていた。
 ほとんどの蛇紋岩地帯が
 開発された中、日本の蛇紋岩
 研究の発端の地でもあり
 典型的な形を残す唯一の
 場所であり、学術的にも大変
 貴重な存在の山である。

トサネリコ、ニシキカマツ
 ニシキコバシ、ミソバツツジは
 錦山産として新種とされた。

田んぼの岸に
 かざぐるまが
 咲く(5月頃)

トサツツキ
 高知の蛇紋岩地
 帯産種。
 自生地は高知市近郊と
 日高村の山頂。
 春の彼岸頃、山を黄色に飾る。

ドウダンツツジ ツツジ科ドウダンツツジ属
 灯台躑躅、満天星
 ドウダンとは枝が分かれている様子が
 夜間の明かりに用いた灯台
 (結び灯台)の脚部と似ている
 ことからトウタンより転じたもの。
 満天星は中国語の表記で
 そのまゝ引用し、和名のドウ
 ダンツツジに読みかえてその。

夜空に「満天星」がある。
 1991年2月に発見された
 山魁星6786には
 ドウダンツツジの名が
 与えられている

「くさんの花が
 吹いている様子を
 満天の星が瞬く
 姿にほざらして
 満天星という。
 美しくロマンのある
 ネーミングだ

道教の神である太上老君が
 霊薬を作るときにこぼした
 霊水がこの木に散り、満天の
 星のように輝いたという中国の
 伝説に由来している。

吉永虎馬 1871-1946
 佐川町出身の植物学者
 県内各所の教員を務める
 牧野富太郎と深く交遊し
 県内各地で植物採集に従事
 菌類や苔類の研究も行う。
 収集した標本は国立博物館
 に収蔵されている。



大花の杖立水
 大花は山の上の集落。その昔
 弘法大師が大花を訪れた時に
 地蔵の人から水を汲んで来て弘法
 大師に飲ませたところ、山の上で
 降りて水を汲みに行っていると
 聞き、地面に杖を突き立てると
 そこから水が湧き出たという。



昭和29年(10月15日)
 能津村と日高村と
 加茂村の一部が
 合併して日高村となる。

ドウダンツツジの花
 スズランのような
 白いつぼ状の花
 花期は4-5月頃
 下向きに咲いて
 いるのはチョウチン
 ハナズグミと違って
 花粉の運び手は
 いるハナバチで
 来てもらうため

錦織りは山つつじ 紅もえて
 輝けばここに集える青春の
 若人われら胞たかしら
 日高村立日高中学校校歌に
 歌われている